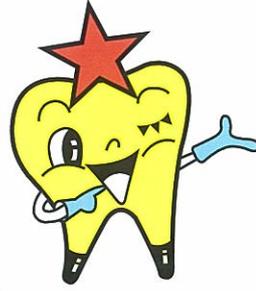


夢みる こども基金だより



〈平成14年〉
9月10日

発行:夢みるこども基金事務局

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-6 赤坂Sビル2F ☎092-751-0021 FAX 092-751-0249

ホームページ:<http://www.standbyyou.com/yumemirukodomo> Eメール:yumemirukodomo@standbyyou.com



▲名護屋小のソーラン節でイベントの開幕

2002 夢みるこども基金キャンペーン

第八回イベント

「世界のこどもたちと交流」

歌や踊り・食で華やかに

歯の金属冠リサイクルで得た浄財でこどもたちの夢をかなえ、福祉にも役立つ活動を続けている、「夢みるこども基金」(理事長 白田貞夫・日本歯科医師会会長)の第8回イベントが8月4日、福岡市博多区ベイサイドプレイス博多埠頭で開かれた。

今年のテーマは、春休みに開かれた「こども会議」で決定した「世界のこどもたちと交流」―歌・踊り・食・遊びを通じて―。

参加したのは、全国から選ばれた「こども会議」のメンバー12人の他、福岡在住の16か国のこどもたちとその家族、それに基金の役員、ボランティア、一般市民など約450人。

開会式の後、ステージでは民族衣装や独特のメロディに合わせて、歌や踊り、楽器演奏などが、こどもたちに、付き添いの家族、それに留学生なども加わり、次々と披露され華やいだ。

遊びコーナーでも、各国に伝わる様々なこどもの遊びやゲームなどが紹介され、こどもたちは世界の珍しい遊びをうれしそうに体験していた。

また、会場を取り囲むように設置された10基のブースには、留学生やボランティアグループなどが、自宅で調理してきたカレーライス、春巻き、それにお菓子、ジュースなど1,780食が並べられた。一般市民にも1食100円の「引換券」を販売、この益金(4万、1000円)は、九州大学留学生会に寄付した。

最後に、参加したすべてのこどもたちがステージに上がり、「こども会議」の代表が「私たちは、この出会いを胸に刻み、夢を持ち続け、力強く、そして「生懸命に生きて行きたい」と、こども宣言を読み上げて幕を閉じた。

約4時間にわたるイベントだったが、こどもたちは楽しく、そして異文化に触れた感激に、目を輝かせていた。

民族衣装色鮮やかに

歌・踊りコーナー

イベント会場正面に設けられた特設ステージでは、8か国・約70人の外国人のたちが、各国のさまざまな歌や踊りを披露。トップバッターは、佐賀県鎮西町の名護屋小学校の児童21名による「ソーラン節」。このソーラン節部隊は、地元のお祭り等にも何度も出演。息の合った堂々とした踊りと、子供たちの一生懸命な姿は、会場の観客の目を引きつけた。

つづいて、迫力のある太鼓の音色を響かせ、色鮮やかな民族衣装を身にまとい、8人の韓国打楽器隊が入場。その重厚な音色に、観客たちも息を飲んで聞き入った。

また、九州大留学生会から駆けつけてくれたのは、インドネシアのチーム。竹でできた楽器「アングルン」による、坂本九さんの「上を向いて歩こう」の演奏。その他、踊りも衣装もプロ顔負けのチリの民族舞踊。「こども会議」のこどもたちは歌と踊りを披露、この踊りは、作文の部・最優秀賞の永嶋芙佳さんの案で、3日の前夜祭の合間を使って、ほとんど休みなしで練習した。

最後は、基金の理事であるアグネス・チヤンさんの歌とトークが、ステージに花を添えた。

30度を超える炎天下の下、出演者一人一人が祖国を愛し、世界平和を願う気持ちを歌や踊りに託した。

閉会式の頃には、会場は暑さに負けないくらいの熱気に包まれ、文字通り、楽しく和やかな雰囲気の中、今年のテーマである歌や踊りによる国際交流は、大成功で幕を閉じた。

◀ 華やかな衣装のインドネシアの踊り



▶ 大きな太鼓をかかえて登場する韓国のこどもたち

冒険家・石川さん アグネス・チャンさん もステージへ

遊びのコーナー

会場は屋根がないため、太陽が直接照りつけ、大変な暑さ。舞台上上がった出演者たちは、全員が汗だくで演目に取り組んだ。

中でも、若き冒険家・石川直樹さんがステージに駆け上がり、マイクロネシア連邦・ウォアレイ島の人たちから教わった“ふんどし”の締め方を披露した。石川さんは、「その島で生活する以上、誰でも例外なく男性なら“ふんどし”を締めなければならぬ。それで、僕も教わったのですが、男の子なら知っておくと便利ですよ」と話し、色鮮やかな布きれを一枚取り出し、あつという間に“ふんどし”を締めて見せた。

このあと、アグネス・チャンさんも舞台上上がり、香港時代の、こどものころの遊びを司会者に尋ねられ、懐かしそうに話し、披露していた。

会場の周辺には、屋台に混じって、風船アートのコーナーが、こどもたちの人気を集めていたが、これは、福田幹子さんの担当。日頃は医療事務を手掛けるかわら、風船で動物や刀、ハットなど、いろいろな細工を披露するもので、福田

さんは、大勢のこどもたちを舞台に呼びあげ、実演とともに、色とりどりの風船をこどもたちにも持たせ、作り方を紹介し、こどもたちを喜ばせた。



◀アグネス・チャンさんもこどもにかえて…



▶風船で人形造りを習うこどもたち



世界の屋台、大にぎわい

食のコーナー

イベントのテーマの一つである「食」の交流では、九州大学留学生会館に住んでいる外国の人たちが参加。それぞれの家庭で作った、たくさん料理が会場へ運ばれ、特設会場両わきに設けられた各屋台からはおいしいそうな匂いがたちこめ、ベイサイドプレイス広場一面に広がっていった。

参加した国は15か国で、お国自慢の料理は、揚げ物、カレーライス、肉料理、煮込み料理、お菓子など。日本の食卓ではあまり食べられないめずらしい料理が多かった。イベントが始まるとまわりで見ている多くの市民も、おいしそうなのに誘われて入ってきた。一食100円で引換券を購入した人達は各屋台を回った。色々な料理が並んでいるので何にしようかと選ぶのに苦労している姿も見られた。

「これは何の料理ですか？」と質問されると、屋台の中から外国の人たちが自分たちの国の料理を日本語で一生懸命説明していた。

日頃、外国の人たちと話をする機会がない私たちも、食べ物を通じて国際交流が広がり、楽しい時間を過ごした。



▲おいしそうなおいだな～



▲各国自慢の料理が並ぶ屋台



2002 夢みるこども キャンペーン

国境・人種を越えて 出会いを胸に「夢」を 持ち続けよう

こども宣言

私たちが作文とイラストに託した小さな夢が、多くの人たちのご協力で大きくふくらみ、今日、私たちは福岡市に集い、「夢みるこどもキャンペーン」の八回目のイベント「世界のこどもたちと交流」を開きました。

全国から集まった十二人の「こども会議」のメンバー、福岡市に住んでいらっしゃる十六か国の外国の方々、佐賀県から駆けつ

けてくれた名護屋小学校の仲間たち、それに多くのボランティア、一般市民の方々：。

ほとんどの人がお互いの顔も名前も知らない、初めての出会いでしたが、歌や踊り・ゲーム、そして初めて味わった色んな国のごちそう。私たちはお祭りのようななごやかな雰囲気の中で、心が通い合い友達になりました。

言葉や文化、生活習慣などは異なっても同じ人間。人を思いやる優しい心をもち、それぞれが夢と希望を抱いて、それに向かってひたむきに生きているからだと思えます。

短いひと時でしたが、暑さも



▲元気に「こども宣言」をアピール

忘れて自分の心と気持ちを一生懸命に伝えてくれた、あの顔、あの声、あのメロディーを忘れることはないと思います。

多くの人たちと出会えて幸

せでした。交流の中で私たちは多くのことを感じ、学び、考えました。

私たちは一人ではありません。世界中の多くの仲間達と、手を

たずさえて生きて行こうと思っ
ています。

この気持ちがあれば、国境も、人種も、言葉も、文化の違いなども乗り越えて、私たちは同じ地球人としてお互いに助け合い、励まし合って生きて行けることを、今日、強く感じました。

こども達の夢を、大人が応援団になって実現して行こうという「夢みるこどもキャンペーン」は、今日一日だけのものではありません。

私たちは、この出会いを胸にきざみ、夢を持ち続け、力強く、そして一生懸命生きて行きたいと思えます。

二〇〇二年八月四日

夢みるこどもキャンペーン

「世界のこどもたちと交流」

参加者一同

開会式

秋山理事長代行 「おとなが夢の応援団に」



開会式は午前11時、夢みることも基金の田中儀夫理事兼事務局長が開会を宣言。理事長代行の秋山治夫・福岡県歯科医師会会長が、「夢みることもキャンペーン」も9年目に入った。日本歯科医師会を中心に大人たちが応援団になって、子どもたちの夢をかなえて行きたい」と挨拶。理事のアグネス・チャンさんがキャンペーンの活動などを紹介した。

今回のイベントの骨格になった作文の部・最優秀賞に輝いた福岡雙葉中学校2年、永嶋芙佳さんがその作文「私の夢・子供達とともに」を朗読した。

引き続き、海外で医療や教育などの分野でボランティア活動を行っている「ネパール歯科医療協力会」に二十万円、「福岡ネパール児童教育振興会」「夢みることも基金学校」(バン格拉デシユ)に各十万円の寄付の目録が贈られ、「ネパール歯科医療協力会」の中村修理理事長が謝辞を述べた。

イベント前夜祭

本番に備え

子どもたち盛練習

今年の夏のイベント「2002年 夢みることもキャンペーン」―世界の子どもたちと交流―は、前日の八月三日午後、福岡市博多区博多駅前前全日空ホテルに集まった「子ども会議」の子どもによる「前夜祭」でスタートした。

参加したのは、ことしの「夢作文・絵」コンクールの応募作品、六三三点の中から入賞した、福岡雙葉中学校二年・永嶋芙佳さん、大阪市平井中学校三年・精松和美さんら十二人と父兄、歯科医師会、基金関係者ら。子どもたちは四日のイベント本番に備え、実行委員の平松咲さん、長島善康さんの助言を得て、子ども宣言の内容、アピール方法などについて話し合った。またイベント会場で披露する歌・踊りの練習に汗を流した。

このあと、ことし五月までは世界最高峰のチョモランマ(英明エベレスト)など、七大陸の最高峰制覇の最年少記録保持者であった冒険家・石川直樹さん(二五)の講演会が催された。

チョモランマ登山やマイクロネシア原住民とのふれあいの旅などの体験談を通して、夢を追い求める人間の喜び、苦しみ、外国の人々とのふれあい、多くの人々への感謝する心などを、スライド写真ビデオ映像を交えて熱っぽく語り、子どもたちも目を輝かせ聞き入っていた。

夕食会のあと、子どもたちだけのアトラクシヨンに移り、イベント当日、会場で「おに

ぎり」を提供した福岡県筑紫野市の「自然農法 白木農園」婦人グループの伊藤照子さんらも飛び入り参加し、童謡「七夕(たなはた)」を熱唱、子どもたちを喜ばせた。



▲冒険について講演する石川直樹さん

2002年 子ども会議

活発な子どもたちの 「夢」あいつづ

夏のイベントを決める「夢みることもキャンペーン」の第八回子ども会議が、平成14年3月31日、福岡市博多区のベイサイドプレイスベイサイドホールで開かれた。

会議には、夢みることも基金が「私のかなえたい夢」として全国の小中学生を対象に募集した作文1005点、イラスト608点の応募者の中の入賞者21名が出席した。

原野彌見理事が「子ども会議も年々充実してきており、キャンペーンの輪をさらに広げて、子ども達の夢を大きく膨らませてあげたい」と挨拶。その後、入賞者の表彰があり、アグネス・チャン理事をコーディネータに会議に入り、今年の「夢」について子どもたちより意見の発表があった。

「世界中の子どもたちと踊りたい」「アフガニスタンなどの難民を助ける医者になりたい」「食べ物を通じて交流したい」などたくさん夢が出された。子どもたちの意見を総括した結果、今年は「世界の子どもたちと交流」をテーマに、8月4日に「歌」「踊り」「遊び」「食べ物」を通じて世界中の子どもたちと交流を深めようとのイベントが決定した。



▲活発な意見が聞かれた第8回「子ども会議」

福岡県、福岡県教委も後援

☆ 後援団体

今回のイベントは、これまでで協力、ご支援いただいた日本歯科医師会、厚生労働省、NHK福岡放送局、福岡市、福岡市教育委員会などに加え、新たに福岡県、福岡県教育委員会にも後援してもらいました。

こんなに大きくなりました！ 8年前に震災都市・

神戸に植えたクスの木

夢みるこども基金が平成7年7月27日、熊本県阿蘇・久木野村で開いた第二回目のイベント「阿蘇こども出合いの里」を記念して、大震災に見舞われた神戸市に贈ったクスの木百本が、すくすくと成長している。

一回目のイベントは、その年の1月17日関西を襲った「阪神・淡路大震災」で、両親を亡くしたこどもたちに「新しい家族」を作ってあげようと、10人のこどもたちを久木野村に招待。第一回「こども会議」のメンバーと、地元「こどもたちの家庭」にホームステイして交流を深めた。その際、大震災でガレキの山と化した

神戸市の、緑の再生に協力しようとしてこどもたちが、久木野村の畑を借りて「兵庫県木」のクスの苗木百本を植え、育てた。そして、翌年3月26日「こども会議」のメンバー、久

木野村のホームステイ先のこどもたちや家族、基金の理事など計27人が、育った苗木を持って神戸市に向き、ほぼ1年ぶりに再会。アグネス・チャンさんも加わり、神戸市西区の高塚公園など一か所に植えた。あれから6年、クスの苗木はこどもたちの「友情」と「復興」の願いを込めてすくすくと育った。力強く大地に根を張り、高さ8メートル前後に成長。震災から立ち上がった



▲すくすくと成長したクス(神戸市・高塚公園で)



▲クスの苗木を植えるアグネス・チャンさんとこどもたち(平成8年3月26日)

神戸市民に、潤いと安らぎを与えている。

このイベントの提唱者で、当時、小学校5年生だった長尾怜美さん(福岡県、筑紫女学園高校3年)は「阿蘇で出会ったお友達とは、今も手紙や電話で連絡を取り合っています。みんな、それぞれの夢に向かって頑張っているようです。クスの木は私たちにとって記念すべきもの。あの公園でぜひ再会したい」と話していた。

「夢の花」を咲かせよう

夢みる子ども基金理事長
日本歯科医師会会長



白田 貞夫

大地から芽が出て、これに水を与え、肥料を施しながら植物を育てていくように、子どもたちの小さな夢も、大人たちが水を与え、そっと包み込まないと育ちません。最近では、連日のように荒々しい事件・事故などが、相次いで報じられ、子どもたちが小さな夢を育めるような社会環境ではありません。それゆえに「子どもたちの無限に広がる夢を、大人たちが一緒に膨らまし、希望と潤いのある社会を作りたい」というこのキャンペーンは、非常に重要であると自負しています。

今年の、「夢みる子どもキャンペーン」の第8回イベントは「世界のことと私たちと交流」がテーマで、歌・踊り・食・遊びを通じ、国際交流を行いました。

地球上ではまだ、各地で紛争などが続いています。大人たちとは違い、子どもたちは何の障害もなく「世界のことと私たちと交流したい」と純粋に口にします。それは、子どもたちと交流したいと思いませんか、これが世界平和への第一歩だと思えます。それだけに大切な夢なのです。

私たち日本歯科医師会は、大地に種を蒔き、子どもたちの小さな「夢の花」をできるだけ咲かせるよう、今後とも出来る限りの協力と支援を続けていきます。皆様とのさらなるご協力とご支援をお願い致します。

夢みる子ども基金は、今年も、「ネパール歯科医療協力会」に三十万円、「福岡・ネパール児童教育振興会」と、バングラデシュ・カラムディ村の「夢みる子ども基金学校」に各十万円を寄付します。この三団体の活動を紹介します。

「夢みる子ども基金学校」

二階建てに増築

バングラデシュ手をつなぐ会

ラフマン・モクレスール

(子ども基金学校日本側窓口)

今年、7月21日から8月4日まで、5人のメンバーでバングラデシュ・カラムディ村に行ってきた。村に滞在中の丸一日「夢みる子ども基金学校」で過ごし、子どもたちや先生たちと交流した。学校は、「夢みる子ども基金」からの寄付で、レンガ作り2階建て10教室の立派な校舎になっていた。

7月28日午前8時半、定刻通り朝の会が始まった。2年生の男の子が指揮をとり、大きな声で国歌や校歌を歌った。11時に「オヌスタン」(発表会)が始まった。子どもたちはクラスごとに座り、5年生の一人が司会をした。それぞれのクラスが歌、踊り、詩の朗読などを披露し、会場は楽しい雰囲気になりました。訪問団のメンバーたちは「これ位レベルが高く、子どもたちが自主的に発表できる学校は他に少ないだろう」と評価した。

「夢みる子ども基金学校」が、地域の期待に応え、一つのモデル校となり、他校に影響を及ぼし、結果として地域全体の教育レベルが向上する

ことを願っている。学校建設に協力して下さった夢みる子ども基金の皆様、心より感謝し、さらに学校が発展して行くよう、頑張ってください。

福岡ニルマルボカリ小学校

第一期卒業

福岡・ネパール児童教育振興会

会長 篠隈 光彦

ネパール王国のポカラ近郊にある福岡ニルマルボカリ小学校は、2002年3月に第一期卒業生30名を送り出しました。

貧しい農家の子どもたちに対する初等教育のために、小学校(5年生まで)を建設しましたが、卒業生全員が進学を希望しています。19名については各々の家庭で何とか進学できる目処がついたのですが、11名は進学は無理のようです。

奨学金制度など別の支援の方法も検討しましたが、複雑で簡単には運びません。そのため努力することのサポートがネパール振興会の目指すところですので、今後も見守る気持ちにはありません。

福岡ニルマルボカリ小学校は30人の卒業生を送り、新たに30人の新入生を迎え、現在182名です。わずか3年の期間で先生や生徒はもろろん、両親や村人の教育意識は驚くほど積極的にになりました。

子どもたちが元気で楽しんでる姿に「ほつ」とさせられる学校になりました。いつの日か「夢みる子ども基金」のイベントに、この学校の生徒も参加できることを夢想しています。

奉仕の中から感動と感謝を再発見

ネパール歯科医療協力会 理事長 中村 修一

(九州歯科大学助教)

ネパール歯科医療協力会は1989年からネパールで国際協力をを開始、13年間で15回のミッションを派遣しました。活動項目は、①歯科診療、②学校歯科保健(ブラッシング指導、フッ素洗口、砂糖の問題を含む健康教育)、③現地口腔保健専門家の養成、④成人を対象とした巡回歯科保健など多岐にわたります。これらの経験から私たちは次のような、貴重な経験と感動を得ました。

- 一、プロジェクト開発の喜び
- 二、自己啓発の喜び
- 三、人間関係の喜び

毎回のミッションが終わり帰国すると、事業評価を行い、知恵を出し合い、新たにプロジェクトを開発しました。プロジェクトを開発する過程では苦しかったことや、うまく行かず中止したものもありますが、振り返ってみると楽しい思い出となっています。

初参加の隊員は帰国前になると頑張った自分を発見して感動します。これを自己啓発と言います。村人に自分が培ってきた技術が通用し「ナマステ」と感謝された時、ネパールの異なった文化のなかで、貧しさの中に豊かさを感じるのです。

これまでに参加した隊員は述べ4000人。年齢も中学生から70過ぎの高齢者まで幅広くいますが、活動を通じた温かい心の通った共感と喜びを分かち合うコミュニケーションが生まれます。国際協力は新しい人間関係を作ってくれます。

私たちの活動はボランティアです。通常の社会は営利が目的の組織で構成されています。ここで人間関係は契約で結ばれ、心は介在しません。非営利のボランティア活動は参加も辞退も自由ですが資金を得ることはありません。契約ではなく心で結ばれるのです。その結果、村人から感謝の心を得るわけです。

今年も私たちの活動にたいし夢みる子ども基金から助成金を頂きました。深く感謝するとともに、大切に活用させていただきます。



2階建て校舎になった「夢みる子ども基金学校」

いつも素敵な「夢」を……

夢みる子ども基金理事



アグネス・チャン

地球の温暖化の影響でしょうか、昨年の夏に続き、今年も猛暑の連続で、全国から、イベントに参加してくれた子どもたちや、当日、駆け付けて下さった世界のごどもたちも大変でした。本当にご苦労さまでした。

今年の、第8回のイベント「世界の子どもたちと交流」は、わずか1日でしたが、世界16か国のごどもたちや家族がそれぞれの、お国自慢の歌や踊りやグルメを持ち寄って、楽しい時間を過ごしました。

見たこともないような民族衣装に身を包んだアジアのごどもたちの踊り、愉快なジェスチャー、そして会場に並んだ小さな屋台では、九州大学留学生会の方々によるお国自慢のグルメが、ひととき猛暑を忘れさせてくれました。

屋台の出し物は、韓国・中国・インドなど、その国では、皆さんが街の屋台などで、何気なく口になっている庶民派グル

メばかりで、会場へ遊びに来ていた家族連れの方々も、一緒になって、思い思いのグルメを探して舌鼓を打っていた。

「ママ、今度はあのお菓子を食べてみたい」など、そんな親子の会話が聞こえてきて、会場は和やかで華やいだ雰囲気になりました。

殺伐とした現代社会では、ごどもたちも『夢』を失いがちですが、そんな時代だけに「夢みる子どもキャンペーン」の大切さを、今更ながら強く感じます。

私が8年前の、ごども基金の設立から参加して来ましたが、ごどもたちから、自分たちの夢を育てていくという作業を、絶対に忘れて欲しくないと考えたからで、その気持ちは今も変わりません。

このキャンペーンを通して、一人でも多くの子どもたちが、そして私自身も、いつも素敵な「夢」を胸に抱いて、生きて行けたらと願っています。



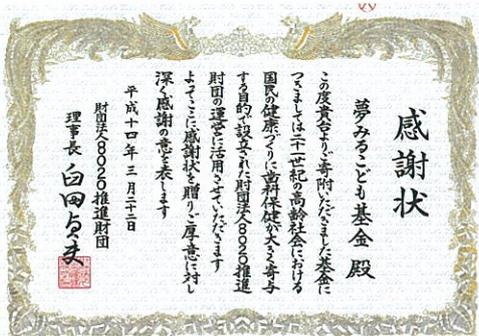
感謝状

一団体から感謝状

夢みる子ども基金は「ごどもの夢作り」の他に、ボランティア活動のグループに助成金を寄託しているが、このほど日本歯科医師会を主体にした「8020推進財団」と「福岡・ネパール児童教育振興会」から基金に感謝状が届いた。

「8020推進財団」は、80歳になっても自分の歯を20本以上保つことで、高齢化社会における国民の健康作りを寄与することを目的に、日本歯科医師会が設立した。基金では、この運動のお手伝いをしようとして平成13年度に基本財産として200万円を寄付した。

また「福岡・ネパール児童教育振興会」(本部 福岡市)は「ネパールの子どもに教育の灯を」をテーマに、教育支援の活動を続けている。基金では、同振興会にも毎年10万円の寄付をしている。



夢みる子ども基金のホームページです。

あなたもアクセスをどうぞ

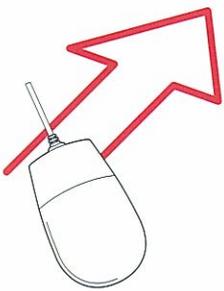
夢みる子ども基金のホームページが昨年5月5日「ごどもの日」に誕生してから今年の10月で1年7か月が経過しました。

昨年のイベントは8月5日に「バリアフリーの社会を作ろう」のテーマで行われ、ホームページには、図版113個・写真36枚を取り込み、トップページにボタンを作り、イベント欄として見やすくしました。

この夏のイベントは「世界のごどもたちと交流」と題して開催。「夢作文・絵コンクール」で入賞した、12名の仲間たちとともに、16か国からたくさんのごどもたちが参加。歌や踊りや食事など、ごどもたちの夢が叶えられた楽しいひと時を、画面いっぱいにしてあげています。

また今後は、全国のごどもたちがいつでも、自由に、何でも話が出る「ごども伝言広場」を開設したいと考えております。10月にはこのホームページを、立ち上げる予定です。

夢みる子どもキャンペーン
<http://www.standbyyou.com/yumemirukodomo>



こどもの夢が

かなってしまうまで！

①作文・イラストの募集

毎年11月1日～翌年1月15日までに「私がかねた夢」をテーマに公募。対象は全国の小学4年生～中学2年生まで



②審査

夢みるこども基金の役員による作文・イラストを審査のうえ、入賞者を決定。



③こども会議

春休みに入賞者を招待し、「こども会議」を開催。夏の「夢のイベント」を決定



④夢のイベント

夏休みに「こども会議」のメンバーを招待し、夢を実現させるイベントを開催

皆様に支えられて・・・

歯の金属冠リサイクルで、二十一世紀を担うこどもたちの夢を育み、恵まれないこどもたちへの福祉にも役立てようと、一九九四(平成六年)福岡市で始まった「夢みるこどもキャンペーン」(主催 夢みるこども基金、理事長・白田貞夫日本歯科医師会会長)は、今春で満八年を迎えました。

このキャンペーンは、日本歯科医師会の全面的な協力と厚生労働省などの後援でスタートしました。これまでに四十七都道府県の二七〇件の歯科医院、大学病院、関係医療機関が参加、寄せられた浄財は二億円を超えました。これらの貴重な浄財をもとに、夏休みにこどもたちの夢をかなせるイベントを開催したり、ボランティア団体などへの寄付を続けています。

今後も歯科医院の先生方を始め、一人でも多くの方たちのお力添えをいただき、キャンペーンの輪をさらに広げ、大人もこどもたちと一緒に夢を見続けたいと思います。皆さまの一層のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

これまでの夢のイベント

- H7.7.27 第1回 一阿蘇こども出合いの里-(熊本県・久木野町) 阪神大震災で両親を亡くした子供たちを阿蘇に招きホームステイ。こども会議の子供たちや地元の子供たちと大自然に触れ、交流を深めた。
- H8.7.25~27 第2回 一阿蘇こどもみどり村-(熊本県・久木野町) こども会議のメンバー18人、筋ジストロフィーの少年ら26人、阿蘇宿泊先の子、理事らを含め総勢約200人が参加。雄大な自然の中で交流を深めた。
- H9.7.21~22 第3回 一世界のこどもと手をつなごう-(福岡市・大手門会館) こども会議のメンバー16人、筋ジストロフィーの少年ら20人、パングラデシュのカラムディ村から3人、関係者も含め総勢約150人が参加。カラムディ村に「夢みるこども基金学校」建設資金を贈呈し、またネパール歯科医療協力会にも活動資金を寄贈した。
- H10.7.24~25 第4回 一夢の放送局-(福岡市・キャナルシティ博多) キャナルシティ博多のサンプラザで開局。子供たちの夢トークや、筋ジストロフィーの少年バンドによるライブが行われた。また、一般市民を巻き込んで、市内中心部をラブウォークし、パングラデシュの学校教材費のために募金を呼びかけた。
- H11.8.8~9 第5回 一ケーキがつなぐ友情の輪-(熊本県・南関町) 5年前に熊本県阿蘇での第1回目のイベントに参加した子供たちやホームステイ先の方々などと一緒に大きなケーキ作りに挑戦。出来上がったケーキを児童養護施設へプレゼントした。
- H12.8.6 第6回 一アフリカの大地に根付け こどもたちの願い-(福岡県・宇美町) 農家・松田好充氏宅にて開催。内戦で苦しんでいるアフリカ・スーダンに贈る食物の種子を収穫し、ユニセフへ贈呈。その後、竹トンボ・竹馬を作り、子供たち全員で遊んだ。翌日、児童養護施設 和白青松園(福岡市)に贈呈した。また、世界こども音楽祭も開催。
- H13.8.5 第7回 一バリアフリーの社会を作ろう-(福岡市・TNC放送会館) 疑似体験コーナー(盲導犬・車イス・点字・手話・老人)を設置して、子供たちが様々な障害を実際に体験した。これをもとに「こどもシンポジウム」を開催、バリアフリーについての子供の意見をまとめ、「こども宣言」として小泉首相や各種行政機関などへ届けた。
- H14.8.4 第8回 一世界のこども達と交流-(福岡市・ベイサイドプレイス博多埠頭) 福岡県在住の16カ国・70人の外国人の人たちが参加。「歌・踊り・食・遊び」を通じて国際交流をした。食の交流で一般市民から頂いた、食べ物引換券代は全て、九州大学留学生会に寄付した。

都道府県別参加登録歯科医院内訳

| 都道府県 | 数 | 都道府県 | 数 | 都道府県 | 数 |
|------|-----|------|----|------|--------------------|
| 福岡 | 469 | 静岡 | 17 | 島根 | 5 |
| 大分 | 205 | 茨城 | 19 | 香川 | 6 |
| 鹿児島 | 143 | 新潟 | 16 | 愛媛 | 5 |
| 東京 | 128 | 福島 | 14 | 石川 | 5 |
| 山口 | 108 | 群馬 | 13 | 岩手 | 4 |
| 長崎 | 70 | 愛知 | 11 | 和歌山 | 4 |
| 神奈川 | 64 | 栃木 | 10 | 滋賀 | 4 |
| 宮崎 | 62 | 宮城 | 10 | 秋田 | 2 |
| 熊本 | 57 | 長野 | 10 | 京都 | 3 |
| 佐賀 | 52 | 三重 | 10 | 富山 | 2 |
| 沖縄 | 34 | 広島 | 12 | 福井 | 4 |
| 北海道 | 31 | 岡山 | 18 | 奈良 | 6 |
| 埼玉 | 32 | 青森 | 5 | 高知 | 3 |
| 兵庫 | 50 | 山梨 | 6 | 高徳 | 1 |
| 千葉 | 15 | 山形 | 6 | | |
| 大阪 | 14 | 岐阜 | 5 | | |
| | | | | | 平成14年9月現在 合計 1770件 |

キャンペーンのあゆみ

- H 5. 6.22 第1回準備会
- H 6. 2.14 キャンペーンスタート
- 4.22 マスコットキャラクターの愛称「はっくん」に決定
- 12.29 第1回 作文・イラスト募集
- H 7. 3.29 キャンペーン推進組織「夢みるこども基金」設立
- 4.2 第1回こども会議(福岡県歯科医師会館・大ホール)
- 7.27 第1回イベント「阿蘇こども出合いの里」開催
- H 8. 1.1 第2回 作文・イラスト募集
- 3.24 第2回こども会議(福岡県歯科医師会館・大ホール)
- 3.26 神戸市にクスの苗木、ヒースばらを贈呈、植樹
- 5.18-19 九州デンタルショーに出展(福岡国際センター)
- 7.25 第2回イベント「阿蘇こどもみどり村」開催
- 11.9-10 九州歯科医学大会に出展(熊本県)
- 12.10 第3回 作文・イラスト募集
- H 9. 4.6 第3回こども会議(アクロス福岡・国際会議場)
- 5.17-18 九州デンタルショーに出展
- 7.21 第3回イベント「世界のこどもと手をつなごう」開催
- 10.25-26 九州歯科医学大会に出展(鹿児島県)
- 12.10 第4回 作文・イラスト募集
- H10. 4.5 第4回こども会議(アクロス福岡・国際会議場)
- 5.16-17 九州デンタルショーに出展
- 7.25 第4回イベント「夢の放送局」とラブウォーク開催
- 10.10-11 アジア パシフィッククリニシャンズ デンタル ミーティングに出展(福岡市)
- 10.24 九州歯科医学大会に出展(宮崎県)
- 12.10 第5回 作文・イラスト募集
- H11. 3.28 第5回こども会議(福岡県歯科医師会館・大ホール)
- 5.29-30 九州デンタルショーに出展
- 8. 8-9 第5回イベント「ケーキがつなぐ友情の輪」開催
- 12.10 第6回 作文・イラスト募集
- H12. 4.2 第6回こども会議(あいれふ10階・講堂)
- 5.13-14 九州デンタルショーに出展
- 8.6 第6回イベント「アフリカの大地に根付け こどもたちの願い」開催
- 12.10 第7回 作文・イラスト募集
- H13. 4.1 第7回こども会議(KKRホテル博多)
- 5.12-13 九州デンタルショーに出展
- 8.5 第7回イベント「バリアフリーの社会を作ろう」開催
- H14. 3.31 第8回こども会議(ベイサイドプレイス博多埠頭・ベイサイドホール)
- 6.1-2 九州デンタルショーに出展
- 8.4 第8回イベント「世界のこども達と交流」開催

※詳細はホームページをご覧ください